



**JASDAQ**

平成 18 年 6 月 23 日

各 位

大阪市北区堂島浜二丁目 2 番 8 号 東洋紡ビル  
ヴィンキュラム ジャパン株式会社  
代表取締役社長 ト部 邦彦  
(JASDAQ・コード番号: 3784)  
問い合わせ先 取締役管理部長 足立 金治  
TEL 06-6348-8951

### CMMI<sup>SM</sup>レベル3 達成のお知らせ

当社は、平成 18 年 6 月 14 日に「ストアシステムの開発における領域」において、CMMI<sup>SM</sup>レベル3を達成いたしましたので、お知らせいたします。

1. 添付資料 システム開発能力の国際的指標CMMI<sup>SM</sup>でレベル3を達成

以 上

2006年6月23日

報道関係各位

ヴィンキュラム ジャパン株式会社

## システム開発能力の国際的指標CMM I<sup>SM</sup>でレベル3を達成

ヴィンキュラム ジャパン株式会社（本社：大阪市北区、代表取締役社長 ト部邦彦）は、2006年6月14日、システム開発能力を客観的に示す国際的な指標であるCMM I<sup>SM</sup>のレベル3（※）をストアシステムの開発における領域において達成いたしました。

当社は、「常にユーザーの立場に立って考える」という姿勢を基盤に、豊富な経験と高い技術力を持つ「超ユーザー系IT企業」を目指しており、その実現のため「セキュリティ」「システム運用」「システム開発」の3つの観点から活動してまいりました。

「セキュリティ」への取り組みとしてプライバシーマーク（2000年）、ISMS（V2.0）およびBS7799-2:2002（2005年）の認証を取得し、「システム運用」への取り組みとしてITILに準拠したシステム運用活動を開始しております。

そして、3つ目の観点である「システム開発」では、より高い品質のソリューションをお客様に提供できるよう、品質向上を目標としたプロセス改善活動を進めた結果、今回、CMM I<sup>SM</sup>レベル3の達成に至りました。

今後もより上位レベルに向け、当該活動を継続していくとともに、他の開発領域への展開も図り、品質のより高いシステムを提供してまいります。

※ CMM I<sup>SM</sup>（Capability Maturity Model Integration）とは米国カーネギーメロン大学のソフトウェア工学研究所（SEI）が開発したシステム開発のプロセス改善モデルであり、国際的にデファクトスタンダードとなりつつある品質保証の手法です。

当社が取り組んだのは段階型モデル（Staged Representation）で、レベル1から5の段階で品質保証の状態を表しており、今回達成したレベル3は「定義されたレベル」と呼ばれ、組織レベルで「プロセスの標準化」が図られ、システム開発が行われている状態を表しております。

参 考

【ヴィンキュラム ジャパン株式会社の概要】

- |            |                    |
|------------|--------------------|
| (1) 商号     | ヴィンキュラム ジャパン株式会社   |
| (2) 主な事業内容 | 流通・サービス業向け総合情報サービス |
| (3) 設立年月日  | 平成3（1991）年2月       |
| (4) 本店所在地  | 大阪市北区              |
| (5) 代表者    | 代表取締役社長 ト部 邦彦      |
| (6) 資本の額   | 5億4212万円           |
| (7) 従業員数   | 361名（平成18年3月31日現在） |

<本件に関する報道関係のお問い合わせ>

ヴィンキュラム ジャパン株式会社 管理部 企画人事グループ 赤木  
財務管理グループ 乗木

TEL 06-6348-8968

FAX 06-6343-6455